

地域戦略改定に関する意見募集と結果概要

■ 対象

- ①都民（都内在住・在勤・在学の方）、②事業者、
- ③民間団体（NPO・NGO・市民団体等）、④教育・研究機関

■ 募集期間

令和3年8月5日（木）から10月10日（日）まで

■ 募集する意見

- (1) 各主体が描く2050年東京の将来像
- (2) 2050年東京の将来像の実現に向けて各主体が進める取組

■ 意見募集結果

○団体※ 31件 ○個人 88件 ○合計 119件

※団体枠の「教育・研究機関」に、大学教授など学識経験者の意見を含めて整理

生物多様性地域戦略改定ゼロドラフト構成

第1章 生物多様性とは

第2章 東京における生物多様性の現状と課題 ※東京の自然の特徴について掲載

第3章 東京の**将来像**（案） ※基本理念や2050年将来像について掲載

第4章 将来像の実現に向けた**基本戦略**（案） ※今後の取組の方向性について掲載



意見募集

団体からの主な御意見

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略2）

【行政】

- 地域資源を都内全域で循環させる東京都版地域循環共生圏を官民で推進する
- 各地域の自然資源が都内で循環する施策を推進する

【都民】

- 里山の活動に参画し、発生材を自宅の薪ストーブに活用する
- マイクロエコツーリズムやアウトドアライフを楽しむ

【事業者】

- 事業所敷地内に、雨水浸透などグリーンインフラとして機能する緑地を創出する
- 企業緑地を開放し、自然に触れる機会を創出する
- 緑地や水辺が持つ価値を引き出すための評価システムを構築し、適切に評価・認証する

【民間団体】

- 緑地の地権者と緑地を活用したい都民をマッチングすることで緑地の活用を図る
- 都市、田園、森林をつなぐ新しいエコツーリズムを実施する
- 放棄谷戸田を復活耕作することで、水田を生息・生育の場として保全する
- 都心に残る緑地を保全・活用することで、雨水浸透機能の向上やコミュニティの活性化を図る
- ムササビの存在を活かした観察会や環境学習の機会を作る
- 親子で自然体験ができる「森のようちえん事業」を地域住民とともに拡充する
- 玉川上水の歴史を学ぶ勉強会を実施する

【教育・研究機関】

- 薪ストーブを学校に導入し、地域の発生材を薪として活用する
- 大学などの教育施設に設置されたビオトープを地域住民に開放する

都民からの主な御意見

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略2）

【東京産の恵みの利用（供給サービス）】

- 多摩産材や近隣で採れた農産物などを購入し、地産地消を実践する
- 自宅の庭や市民農園で自ら野菜を作って家庭で消費する
- 種から育て収穫に至るプロセスを経験することで、普段、体に取り込んでいる食糧を生産している都市農業への理解を深める

【防災・減災等につながる自然の機能の活用（調整サービス）】

- 自宅で雨水浸透ますの設置をするなど雨水浸透に貢献する
- ツル系の野菜を育てることで緑のカーテンを作り、夏にエアコンを使用しない
- 自分の暮らす自然環境を知り、防災、減災につながる方策を学習をする

【快適で楽しい生活につながる自然の利用（文化的サービス）】

- 木登りやツリークライミングなど自然を使った遊び場の環境づくりを応援する
- 島しょでのエコツーリズムの考えに基づくエコツアーに参加する
- 伝統的な技術に基づく竹細工作りなど自然からの文化を次世代に継承する
- 自然の中で過ごしたり体を動かしたりすることで心身をリフレッシュする
- コロナ禍において、近場の都内の自然を享受し、精神的な充足を得る 等

団体からの主な御意見

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略3）

【行政】

- 東京のエコロジカルフットプリントについて正しく普及啓発する
- 自然史博物館を設置し、都内の生物多様性に関する情報の収集・整理、普及啓発・情報発信を行う
- 都民及び生活圏内の昼間都民等に、消費行動や保全活動の担い手として啓発する
- 地域の博物館や郷土資料館、環境省のこどもエコクラブなど連携した普及啓発を行う

【都民】

- 環境保全団体やボランティア団体などに寄附や遺贈をする。
- 旅先や都外での仕事を行う際にも、生物多様性に配慮して行動する。

【事業者】

- 企業緑地を活用し、生物多様性、地球温暖化、資源循環などの環境教育（ESD）を推進する
- NPO等と連携し、地域の小学生等を対象とした自然体験活動を推進する
- FSCやMSCなど生物多様性に配慮した環境認証商品の利用を積極的に進める
- NPOや行政に寄付活動を行うほか、余った食品をフードバンク等に提供する
- サプライチェーンにおいて生物多様性への影響を回避・最小化する

【民間団体】

- ワンヘルスアプローチを広く普及啓発することで、都民の生物多様性の機運を高め、実践を促進する
- 環境的な希少性の高い農業用水の担い手を育成する
- 生物多様性の意識の醸成を図るため、身近な物事と生物多様性を絡めたイベントを開催する
- 国際的な生物多様性保全の共同調査や国際的なイベントと連携した普及啓発を行う
- 身近な生きもの大切さから、地球規模の生物多様性保全の意義について訴える
- 大学生のインターンを積極的に受入を行い、人材育成に貢献する

【教育・研究機関】

- 都内の幼稚園・保育園等で自然体験の機会がつけられ、小中学校で生物多様性の学習体験が行われる

都民からの主な御意見

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略3）

【生物多様性に関する普及啓発】

- 日常生活やインターネットを通じて、生物多様性の価値を発信する
- 家族、知人に東京の生態系や生物多様性について知ってもらう
- 行政の計画策定に意見を出すとともに募金や寄付などで民間団体へ支援を行う
- 東京の生物多様性の取組や生物多様性の価値を海外へ発信する

【人材育成と環境教育の促進】

- 子どもが身近に自然に触れられる環境づくりをする
- 子供と一緒に自然のある地域や環境学習が可能な施設に行って、子供への環境教育に実践する
- 行政やNPO団体などが行う環境学習講座を受講する

【都内だけでなく地球環境に配慮・貢献する行動変容】

- 量り売りや持参容器による買い物で、使い捨て資源を削減する
- 牛肉を食べることを控え、大豆等の植物性たんぱく質の摂取を心がける
- 車は所有せず、主に自転車や公共交通機関による移動を心がけ、必要な時はシェアカーを利用する
- 認証ラベルのある自然にやさしい商品をなるべく購入する 等